



【書籍紹介】



広瀬弘忠著『エイズへの挑戦—患者・科学者・メディア・社会』（1989年 新曜社 398頁）

広瀬弘忠著「人類にとってエイズとは何か」（1994年 NHK BOOKS 248頁）



コロナ・パンデミックの渦中で、コロナ後の社会を云々する人々がいる。現在、世界中で44.5万人超の死者（6月18日AFP）を数え、ペールライダーの力は、まだまだ衰える気配さえ見せない。確たる根拠もなしにウイズ・コロナ社会を口にする論者には、エイズのパンデミックから得られた知見が有効かもしれない。ウイズ・コロナとは、我々がコロナウイルスそのものと共存することではない。コロナ感染者との共存であることを誤解してはならない。

ほぼ100年前の「スペインインフルエンザ」では、世界中で5,000万人から最大1億人が死亡したといわれている（Science, vol.357,1245）。今日の世界の人口は、当時のほぼ4倍なので、現在に置き換えると2億人から最大4億人の命を奪ったことになる。

このウイルスを追跡できなくなってから80年近く経って、科学者たちは、アラスカの永久凍土の集団埋葬地で犠牲者の遺体を掘り起こした。ウイルスの強毒性を解明し(Nature, vol.437,794-795)、ウイルスのコピーを合成した(Nature, vol.473,889-893)。

新型コロナウイルス(COVID-19)は、さらにずる賢いかもしれない。感染力は強いが、重篤で死に至る人の割合はそう多くはない。エボラ出血熱のように致死性が強い感染症の場合には、ウイルスの運び手が他にウイルスを感染させる前に行動力を失わせてしまうため、パンデミックには至らない。新型コロナの場合には、大半がほとんど無症候のまま自由に歩き回る。そのため感染が拡大する。パンデミックの要件は、病原体が長い潜伏期間あるいは感染者が軽微な発症様態で十分な感染力を持つことである。

かつて「エイズの時代」があった。今日、エイズは過去の病気だと思っている人は少なくない。しかし、UNAIDSの報告によれば、これまでに3,200万人が死亡し、2019年におけるHIV（エイズウイルス）の新規感染者は170万人、ウイズHIVを生きている人々は3,790万人、そのうち抗ウイルス薬による治療を受けている人々は2,450万人、死者は77万人である。

HIVは遺伝子の変異が大きいいため、未だ有効なワクチンはできていない。そのため抗ウイルス剤の開発によって、耐性のできた薬剤を置き換え、カクテル療法と呼ばれる薬剤耐性が起こりにくい多剤併用療法で、発症前の期間を延ばし、発症後の病気の進行を遅らせるのに成功している。「エイズは慢性疾患になりつつある」というのはこの辺りの事情を踏まえている。若くしてAIDSを発症しながら、先月、84歳で亡くなったラリー・クラマーは、ウイズHIVの象徴的な存在である。彼は、ゲイメンズ・ヘルス・クライシスやアクト・アップという「戦闘的」なグループの中核的な存在として、エイズや性的マイノリティーへの差別と偏見と激しく戦い、スティグマの軽減に大きな貢献をした。

私が、社会学者としてエイズの調査研究を行ったのは、1980年代後半からの10年間である。この間に、多くの患者、患者を支えるNPOの人々、孤軍奮闘しながらエイズ診療を行っていた医師たち、エイズ事情に通じていたジャーナリストなどとのインタビューや議論を通じてエイズを理解しようとした。また、米、欧、東南アジアにおける患者や支援団体への取材を通じて、次第にわかってきたことがある。エイズの悲惨な犠牲者は、エイズと闘いながらセクシュアリティの壁を壊し、医療者主導であった医療を、患者がイニシアチブを取る場へと導く開門をこじ開けたのである。

冒頭に掲げた2冊のうちの前書は、最初のエイズ患者の報告から、疫学によるクラスター調査結果による感染のタイプ分けと患者のケース・スタディについて述べている。また、ウイルス発見をめぐる科学者たちの熾烈な競争と、有効な治療法を欠くために起った世界各国のエイズパニック、患者に対する差別、偏見、スティグマの実態を報告している。

後掲書は、エイズパンデミック発生の現代的な理由とともに、各国の流行の実態を詳述し、医療における生と死の管理が医療者の手から患者の側に移りつつあることを、驚きとともに詳述している。

エイズの流行の中で、悪戦苦闘しながら書いた2冊ではあるが、新型コロナに直面している人々にとって得るところは少なくないと思う。



広瀬弘忠著『エイズへの挑戦—患者・科学者・メディア・社会』（1989年 新曜社 398頁）

<https://www.shin-yo-sha.co.jp/book/b456347.html>

広瀬弘忠著「人類にとってエイズとは何か」（1994年 NHK BOOKS 248頁）

<https://www.nhk-book.co.jp/detail/000000016921994.html>

広瀬弘忠様プロフィール

<http://www.sanshin-tatemono.co.jp/anzen-ansh.../profile.html>



※本稿は日本ペンクラブ平和委員会緊急企画『パンデミックと表現』に協賛いただいている広瀬弘忠様にご寄稿いただいたものです。

